

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2021年6月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2021年6月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:276、回収数:83、回収率:30.1%、回収期間:6月21日～6月30日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (4月～6月)	見通しDI (7月～9月)
合計(N=83)	13.9	59.3
行政・協会(N=31)	24.2	63.7
宿泊施設(N=16)	3.1	60.9
集客施設(N=6)	8.3	45.8
飲食・物販(N=6)	25.0	50.0
交通・代理店(N=13)	7.7	59.6
その他(N=11)	4.5	56.8

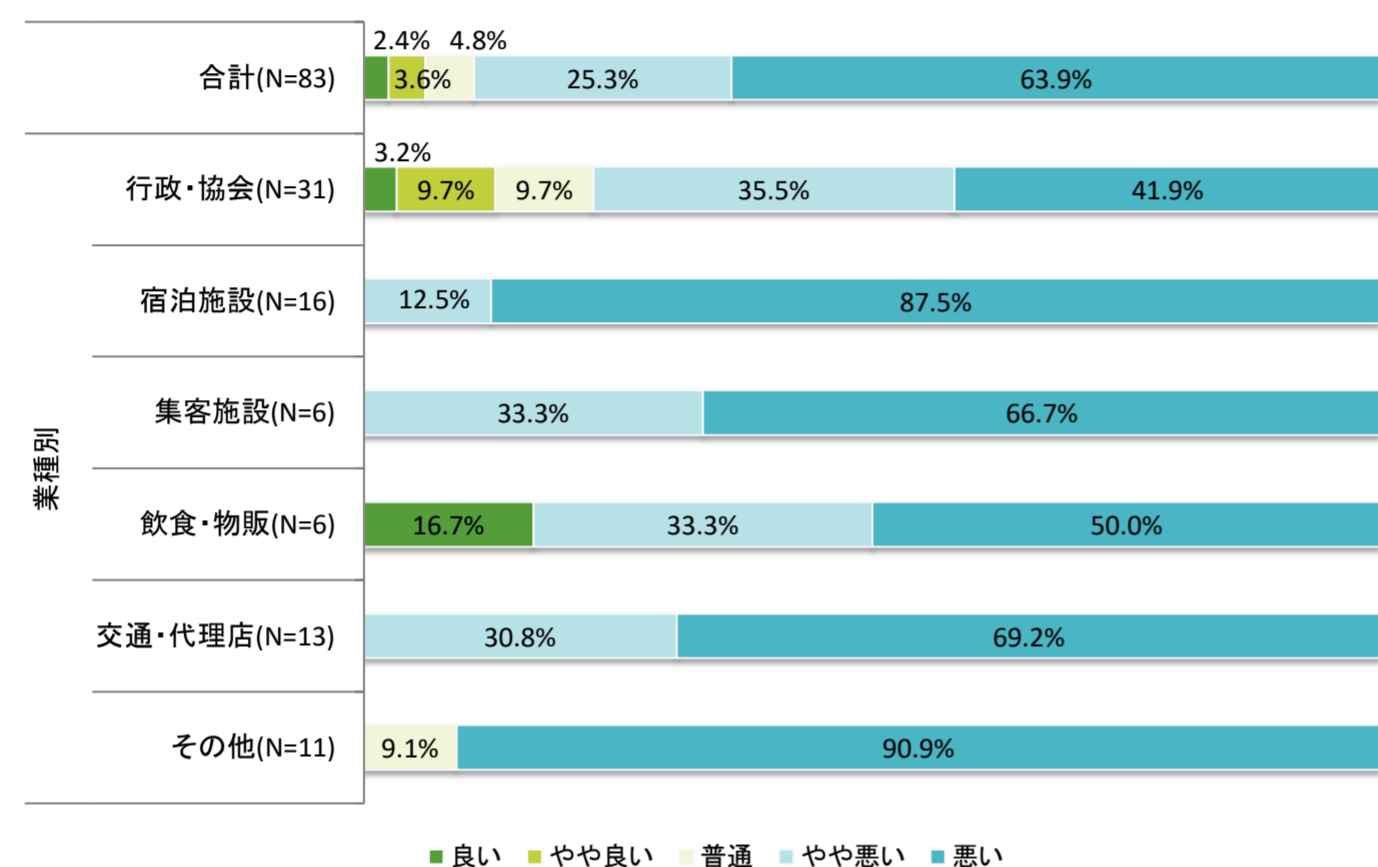
4～6月の熊本県の現状判断DIは13.9となった。多くの事業者等が現在の景況感を「悪い」もしくは「やや悪い」と感じており、新型コロナの第4波による影響が、宿泊施設や交通・代理店など全般的に色濃くなっている。

また、見通しDIは59.3となった。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示し、7～9月期は現状より良くなるとの期待が見て取れる。

※DIとは

同調査におけるDI(ディフュージョン・インデックス)は、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。

2. 4～6月期の動向、景況感



4～6月の景況感は、「良い」と「やや良い」の合計は6.0%、「悪い」と「やや悪い」の合計は89.2%となっている。新型コロナの第4波に伴う外出自粛などの影響が続いている。

【コメントの抜粋】

●良い・やや良い

徐々に観光関連が戻りつつある。(飲食・物販)
 昨年の同時期と比較すると4倍近く入込客の増加も見られるが、5月中旬から感染者が増加傾向となり、県外からの入込客が減少中。(行政・協会)

●普通

昨年の7月豪雨で大きな被害を受けたが、復興に向かって少しずつ進んでいると思う。(行政・協会)

●やや悪い

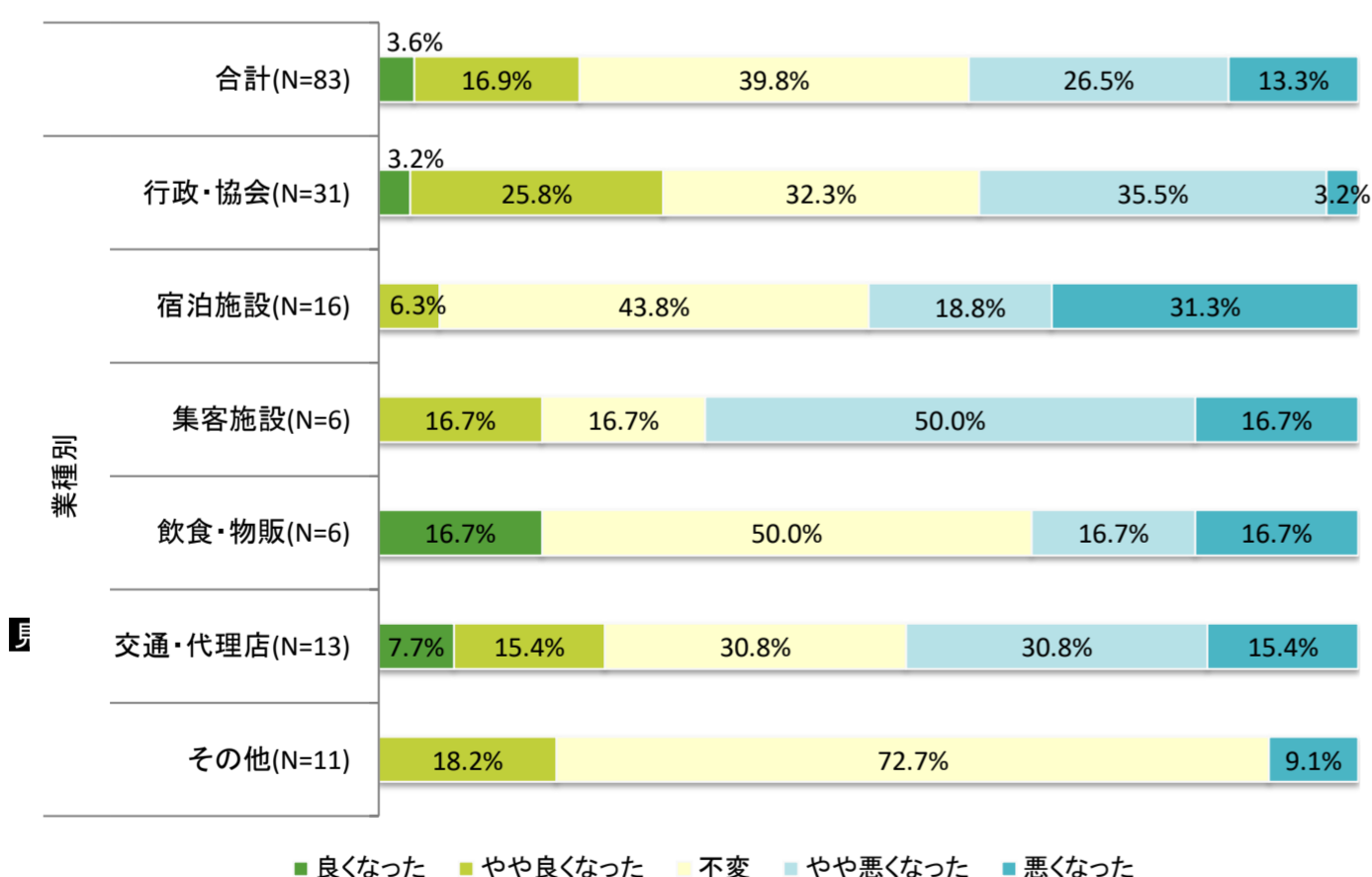
特に4月下旬からのまん延防止等重点措置開始から客足の鈍化傾向が継続している状況。(宿泊施設)

●悪い

感染症蔓延により、法人、個人の旅行需要の発生自体が無い。(交通・代理店)

コロナの影響で観光客激減。(集客施設)

3. 1～3月期に比べた4～6月の動向、景況感



1～3月期に比べた4～6月の動向、景況感は、「不変」が39.8%と最も回答が多かった。なお「良くなった」と「やや良くなった」の合計は20.5%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は39.8%となっている。

【コメントの抜粋】

●良くなった

感染者が減少傾向にあり、景況感はよくなってきているように感じる。また、キャンプシーズンやアウトドアシーズンになり客足が増えている。(行政・協会)

●やや良くなった

1～3月期の11都府県への緊急事態宣言に比べれば4～6月期は人の動きが緩んでいるので。(行政・協会)

売上の増加、肌感。(交通・代理店)

●不変

宿泊・宴会婚礼等まだ少ない。(宿泊施設)

コロナ感染状況に変化がなく、制限が続いていることが大きい。(集客施設)

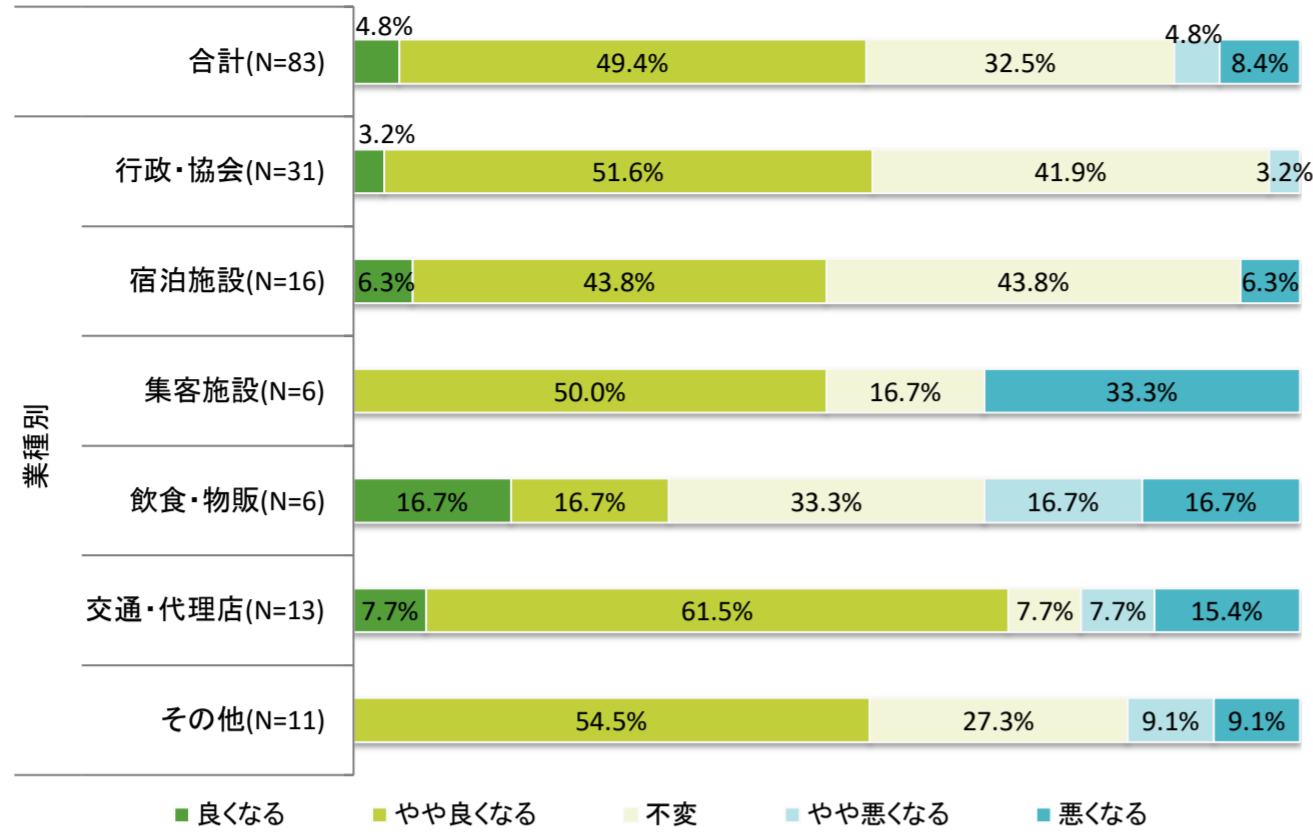
●やや悪くなった

GW期間中に若干利用客の回復が見られたが、第4波の影響により1～3月期と比較して利用客が減少しているため。(交通・代理店)

●悪くなった

1～3月はコロナが落ち着いて、人の移動も多少あり、売上も多少上がったが、4～6月は3回目の緊急事態宣言で県内外の帰省、旅行者がかなり少なく、大幅に売上が減っている。(飲食・物販)

4. 今後、9月までの業況の見通し



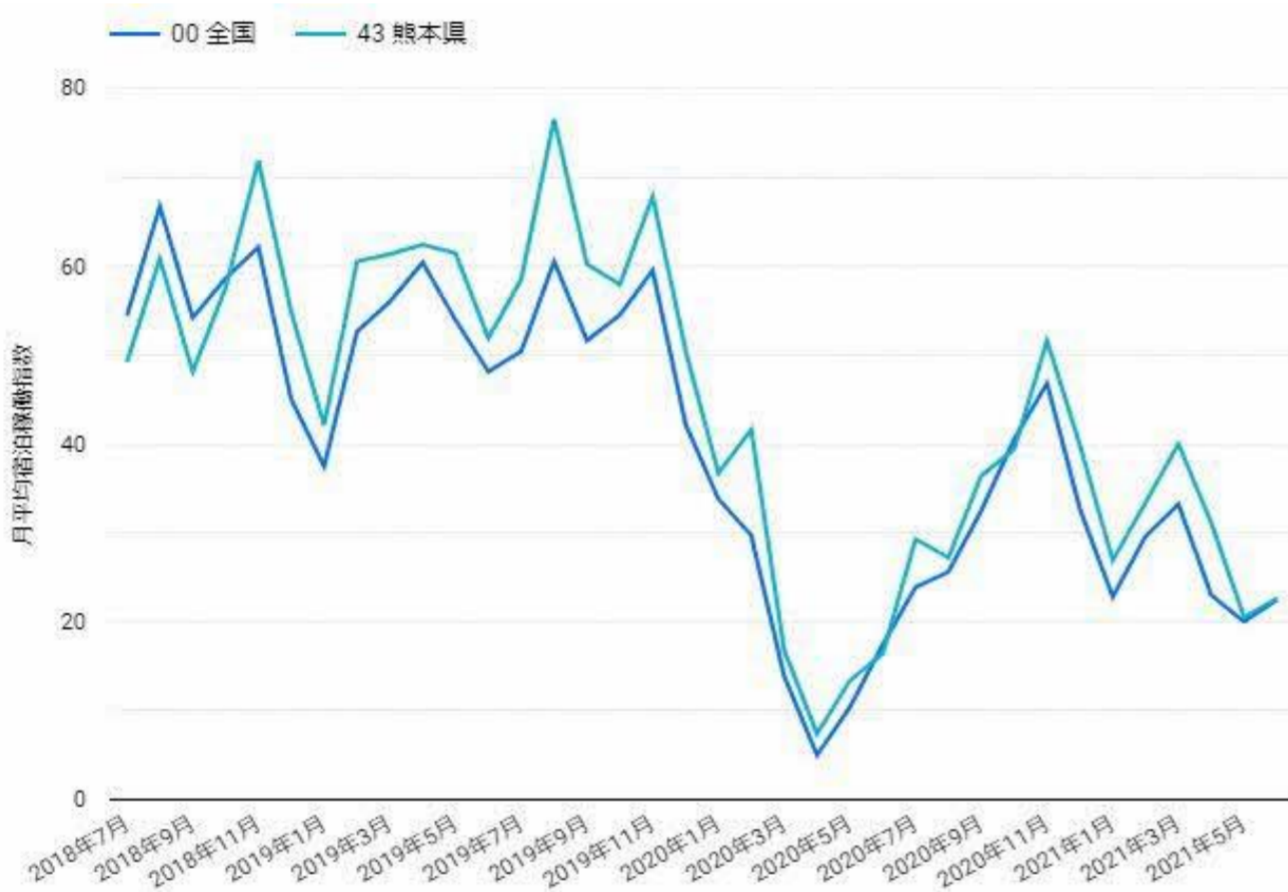
今後9月までの業況の見通しは、「良くなる」と「やや良くなる」の合計は54.2%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は13.3%となっている。新型コロナウイルスの感染者数減少とワクチン接種への期待が高まる声と、ワクチン接種の遅れの指摘や感染状況が読めないといった声があがった。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
直近の熊本県・市の感染者数の状況から、6月末をめどに時短要請等も解除見込みであり、全国的に人流が戻ること期待している。また、ワクチン接種も進んでいることから、9月以降秋にかけては今よりはだいぶ良くなると思われる。(行政・協会)
- やや良くなる
ワクチン接種が進み、個人に限るが、旅行需要が戻ってくるのではないかと予測。(交通・代理店)
ワクチン接種が広がっていくことで消費行動がやや活動的になるだろうと判断。(集客施設)
- 不変
ワクチンの接種がある程度まで進まないという回復は見込み薄いと思われます。(宿泊施設)
インバウンドが戻らない。先を示したアフターコロナ対策が成されていない。(その他)
- やや悪くなる
ワクチン接種の普及が当初より遅れていることから、上期は前年より厳しくなる恐れがある。(交通・代理店)
- 悪くなる
コロナ収束がわからず見通しがたたない。(飲食・物販)

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別



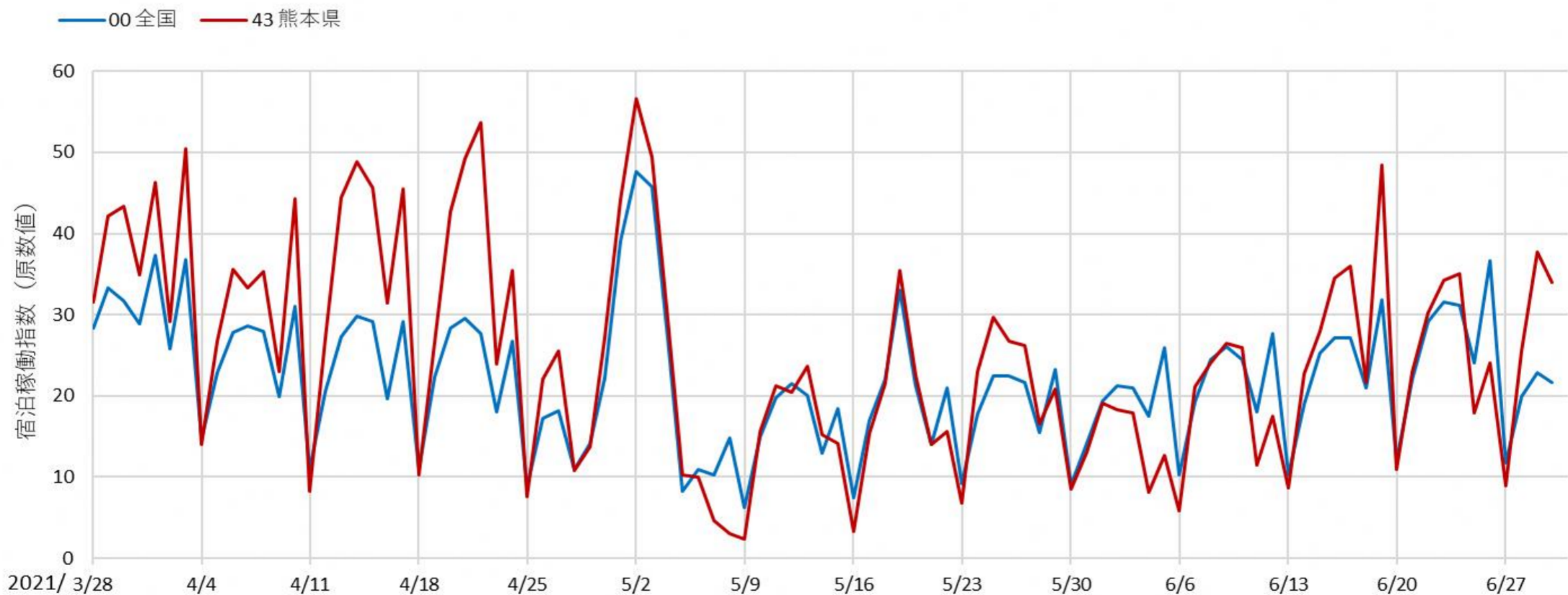
2021年6月における熊本県の宿泊稼働指数は 22.6 となり、前月の 20.5より 2.1pt 高い水準となった。前年差は 6.2pt となっている。2020年4月～5月の緊急事態宣言発出時よりは高い水準となっているものの、2020年7月からの1年の間では、他地域の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響を受け、2021年5月がもっとも低い値となった。

※宿泊稼働指数とは

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は 0 から 100 の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。

②日次別



宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、緊急事態宣言が4都府県に発出され、熊本県でも新型コロナの感染者数が再度増え始めた4月後半からゴールデンウィーク前にかけて稼働指数は低下傾向にあった。ゴールデンウィークには一時50を超えるまでに回復したが、ゴールデンウィーク明けより再度大幅に減少し、その後緩やかな上昇傾向にはあるものの、低迷が続いている。